



復刊第129号
題字 吉岡弥生

巻頭言

会長 山崎 倫子

あけましておめでとうございます。皆様にはご健勝に新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新しい年を迎えるたびに、月日の立つのがあまりにも早いのに驚かされ感慨無量です。とくに昨年は役員
の改選があり、一層その感を強く感じております。幸い、新役員一致協力して予定通り事業も進んでおります。

年頭に当たり、一、会員の増強に一層努力すること。二、見える、認められる女医学会に発展させていくこと、三、公益法人として、定款にか
がけた女医の社会的使命の遂行と国民福祉の増進に寄与すること。四、
そのために本部支部、支部間、また会員間の交流と理解を深め、明るい、
楽しい会とすること、を目標として
いきたいと考えています。

一年をふり返って、四月大阪、五月埼玉、六月群馬、そして十一月に

は東京都支部連合総会にお招きをいただき出席させていただきました。また十月には札幌市社会福祉センターで、日本女医学会、同北海道支部主催で「女性のライフサイクルと性」
講師長池博子先生、「幸せな老後のために」講師山崎、公開講演会を開くことができました。水曜という
週半ばであったにもかかわらず、聴衆二百八十名で大変盛会でした。支
部長はじめ支部の先生方には、諸々の準備にさぞご苦労いただいたことと感謝しております。札幌市医師会
北海道新聞などの後援も取りつけ、新聞では二回にわたり講演会の予告
を掲載してもらった由、また日本女
医学会北海道支部が積極的に取り組み
つつある病児保育事業についても報道され、北海道支部も大きくクロー
ズアップされていることは喜ばしい
ことです。講演終了後、支部長奥山
春枝先生に、聴衆の中の男性のお一

人から、「本日のご講演本当にあり
がとうございました。有意義なもの
ばかり、最近にない有意の説得力あ
る内容に満足いたしました。聴衆者
の九九%は大変ためになったとのた
め息がもれておりました。ありがと
うございました」のメモが届き、真
剣に聞いて下さったことを嬉しく思
いました。

また十一月には高知市共済会館で
「最近の若者の性」と題して、国立
高知病院婦人科医長の三木鈴先生と
私が講演をいたしました。折しも県
知事戦たけなわの忙しい時期にもか
かわらず、盛況で熱心に聴講いた
だきました。高知県女医学会、高知県及
び市医師会、高知新聞、高知放送な
どの後援をとりつけ、新聞、テレビ
にも予告がスポットで放映されたそ
うです。支部長浜崎浜子先生はじめ
諸先生に厚くお礼を申し上げます。
学生時代にご指導いただいた元支部
長、窪敦子先生にもお会いできてお
なつかしく嬉しいことでした。

札幌でも、高知でも、お世話下さ
った先生方と古くからの知己のごと
くお話し合いができ、友情を重ねた
りまた新しい友情が生まれてくる、
嬉しい再会、出合いがありました。
どこの支部に伺ってもコミュニケーション
の大切さをしみじみと感じ
ました。どの支部も、総会、講演会
などの勉強、引きつづき懇親会でお
楽しみといった具合で、和気あいな
いに楽しく過ごされています。東京
都支部連合会には五月の総会の折、

もくじ

巻頭言.....山崎 倫子 (1)

第十四回学術講演研修会

「細菌性ショックと生体防御機構」ブドウ
球菌やレンサ球菌外毒素のT細胞活性化作
用と病原性を中心として.....内山 竹彦 (2)

新役員のごとば.....川田喜代子 (2)

少産少子に想つ.....香川 綾 (4)

文化功労賞を受賞して.....中平千与子 (5)

高柳泰世先生、日本医師会最高優功賞受賞.....藤本 芳子 (5)

全国地域医療功労賞を受賞して.....丸茂 晶子 (6)

最高裁判所長官表彰を受けて.....川田喜代子 (7)

札幌公開講演会に出席して.....川田喜代子 (7)

高知公開講演会に出席して.....川田喜代子 (7)

弔詞.....川田喜代子 (7)

平成二年度会員学位取得者一覧表.....川田喜代子 (7)

理事会議事録.....川田喜代子 (7)

緊急理事会議事録.....川田喜代子 (7)

会員動静.....川田喜代子 (7)

編集後記.....川田喜代子 (10)

相撲、観劇、お茶席などお世話に
なり大変ありがたく、出席された全
国の皆様にはご満足いただいた次第
ですが、日本女医学会をバックアップ
するためにあるのだから「がんばっ
て、しっかりやるように!!」と力強
くまたあたたかいお励ましをいた
だき感激でした。今後ますます交流を
深め、会員の輪を上げていくようご
協力下さい。

人材登録は残念ながら進んでおり
ません。こういう分野なら、活動な
ら、登録してもよいと思われる方
ぜひ進んでお申し出下さい。またご
推せんの方もよろしくお願ひ申し上
げます。
去る十月十二日、学術講演研修会
が京王プラザホテルで開催されま
した。テーマは「細菌性ショックと生
体防御機構——免疫リンパ球や食細
胞の関与」で内山竹彦東京女子医大
微生物学教授のご講演をいただきました。
Toxic shock syndrome (TSS)は
ブドウ球菌外毒素によって多彩な症

図1 T細胞活性化作用をもつ細菌外毒素の生体への影響

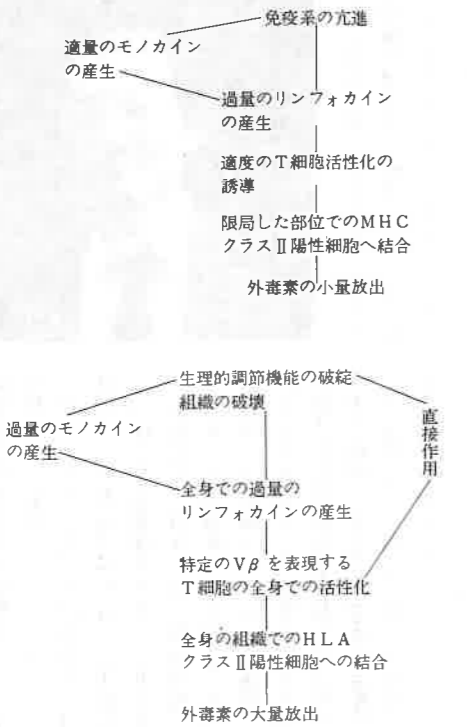


表1 細菌外毒素を用いて測定したTSST-1とSEsのMHCクラスII分子への結合性

外毒素	マウス (H-2)		ヒト (HLA)		
	I-A	I-E	DR	DQ	DP
ブドウ球菌外毒素					
TSST-1	陽性	陰性	陽性	陽性	陰性
SEA			陽性	陽性	陰性
SEB			陽性	陽性	陰性
SEC1				陽性	
SEC2				陽性	
SEC3			陽性	陽性	
SED			陽性	陽性	
SEE			陽性	陽性	
レンサ球菌外毒素					
SPE A			陰性	陽性	陰性

「陰性」は検出感度以下の意味である。

表2 外毒素によるT細胞活性化にはMHCクラスII陽性アクセサリ細胞の存在が要求される

外毒素	マウス (H-2)		ヒト (HLA)		
	I-A	I-E	DR	DQ	DP
ブドウ球菌外毒素					
TSST-1	+++	+	+++	+++	+++
SEA			+++	+++	+-
SEB	+++	+	+++	+++	
SEC			+++	+++	
SED			+++	+++	
SEE	+++				
ET			+++		
レンサ球菌外毒素					
SPE A	+++		++	+++	+-
SPE B			++	+++	

表1で直接の外毒素結合検査が陰性であるがこの表で見られるようにアクセサリ細胞が陽性として検出されることがある。このような実験結果が得られることは、MHCクラスII分子と外毒素間の結合は実際には起きているが、その親和力が低いことに起因すると筆者は考える。

表3 TSST-1, SEs, はTCRに特定のVβ鎖をもつT細胞を活性化する

外毒素	マウスVβ鎖	ヒトVβ鎖
ブドウ球菌外毒素		
TSST-1	(3), (4), 15	2
SEA	1, 3, 11, 12	
SEB	3,7,8,1,8,2,8,3,11	3, 12, 14, 15, 17
SEC 1	3,(7),8,2,8,3,11	(5), 12
SEC 2	3, 8,2, 8,3, 11	12, 13,0, 14, 15, 17
SEC 3	3, 8,2, 11	12, 15
SED	3,7,8,2,8,3,11	5, 12
SEE	11	5.1,6.1,6.2,6.3,8,18
ET	(3), 10, 12	(2)
レンサ球菌外毒素		
SPE A	8,2	8, 12, 14
SPE B		2, 8
Mタンパク	8	

() は不確定のもの。

に強い活性化作用を示す。TSS患者よりブドウ球菌は検出されず、レンサ球菌のみが検出される例があることから、SPEはTSS様疾患も誘導しうると考えられている。われわれの研究室では両疾患の病的状態は外毒素によるT細胞活性化を介した反応によって惹起されると考えて、研究を進めている。

SPesは他の毒素群よりかなり作用は弱いようである。一九八九年に筆者の研究室を含め国内外の数箇所の研究室によって①TSST-1, SEA, SEBはヒトやマウス主要組織適合複合体 (major histocompatibility complex, MHC) クラスII分子に直接結合すること(表1)、②A細胞上のMHCクラスII分子は外毒素によるT細胞活性化に必須の存在であること(表2)、さらに③それぞれの外毒素は特定のVβ鎖をもつ通常の抗原受容体(TCR)を表現するT細胞を活性化すること(スーパー抗原特性)(表3)が証明された。これらの観察結果から、TSST-1, SEsとして

SPesの標的細胞は免疫組織や皮膚組織に広く分布するMHCクラスII陽性細胞(B細胞、マクロファージ、樹枝状細胞、皮膚ランゲルハンス細胞)であること、さらにT細胞はTCRを用いて外毒素・MHCクラスII分子複合体を認識すると言え、TSST-1やSE産生ブドウ球菌、SPE産生レンサ球菌に感染した生体には産生された外毒素はMHCクラスII陽性細胞に結合し、外毒素応答性T細胞の活性化を通して、種々のリンフォカインの産生を短時間で誘導するであろう。微量の外毒素により適量のリンフォカインが誘導されれば、感染防御上有利に作用するであろう。しかし、大量の外毒素により大量のリンフォカインが短時間に誘導されれば状況は逆転すると思われる。臨床報告や動物実験において大量のリンフォカイン投与は生体に障害作用を示すことが報告されている。TSSで死亡した症例や実験的TSSウサギの病理組織検査では、多臓器の無菌性の炎症像やリンパ組織の異常等が共通して観察され、生体内リンパ組織の毒素に対する反応がTSS発症の機序に大きく関わっていることを示す。筆者はTSSや猩紅熱に見られる異常所見は外毒素により大量に誘導されたT細胞由来因子(IL-2, γ-IFN, TNF-β)やマクロファージ由来因子(IL-1, TNF-α)の相乗的な毒性効果によって誘導されると考え(図1)、現在



新役員のことば

少産少子に思う

川田喜代子

このたび、全国より優秀な方々が集まっておられるとかねがね聞き及んでおりました日本女医学会理事に選出されましたことを、たいへん光栄に思っております。と同時にご推挙下さった大阪の先生方からのご意見を、日本女医学会の今後の発展に少しでもプラスになるよう、積み上げていく責任を痛感しております。

さて、昭和六十年六月に、男女雇用機会均等法が制定され、昭和六十二年四月一日より実施されましたが、未だに男女差別が残っている周囲をみわたす時、高校、大学と学生時代には、むしろ、成績が上位であった女性が、卒業後、社会に進出した時に男性に比べ、出産、育児におかれて脱落していくケースが生じてくるという現実、大阪府人事委員会委員という現在の仕事の面からも垣間み

示しいただきました。日頃基礎的な仕事から離れている私たちには、少産少子というか、むしろ予防、TSSのおこった時の対応、抗生剤の使用など今後お教えいただけたららふと思つたことでした。三月のグアテマラ会議への登録は

お済みでしょうか。次に一九九三年(平成五年)には国際女医学会、西太平洋地域会議(加盟国 フィリピン、韓国、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、日本)を京都で開催することになりました。日時は五月二十、二十一、二十二の三日間とし、二十三日は日本女医学会の総会とする予定です。くわしくはまだ未定ですが、一月中にはテーマ、

第14回学術講演研修会

第14回学術講演研修会について 橋本 葉子

平成三年度の学術講演研修会は、講師に東京女子医科大学教授内山竹彦氏をお迎えし、「細菌性ショックと生体防御機構——免疫リンパ球や食細胞の関与——」について、平成三年十月十二日(土)午後三時三十分より、京王プラザ南館三階グレースルームにおいて開催されました。演題が少し堅すぎたせいか、会員の

細菌性ショックと生体防御機構

ブドウ球菌やレンサ球菌外毒素のT細胞活性化作用と病原性を中心として 東女医大・微生物学教授 内山 竹彦

感染症は、病原微生物や細菌毒素による細胞や組織の直接的な破壊や機能障害に起因すると一般的には思われがちである。しかし細菌毒素に

参加は例年より少々少なかったように思われましたが、講演内容は素晴らしく、最先端のことは理解に苦しんだとしても、参加された方々は満足されたことと信じています。講演の抄録は内山先生ご自身がお書きくださったので一読いただきました。いと存じます。

種の自家中毒現象による機序が考えられている。感染性ショックのうちのエンドトキシンショックと毒素性ショック症候群(toxic shock syndrome, TSS)がそのもっとも典型的な例である。前者はグラム陰性桿菌の内毒素(リポ多糖体からなり、リピドAが本体)によって、後者は後に述べる細菌外毒素によって惹起される。両疾患とも今後ますます増加すると思われる。



高柳泰世先生(愛知支部)

文化功労賞を受賞して

豊島支部 香川 綾

このたびは、私が文化功労者として選ばれたことにつき、お祝い下さいましてありがとうございます。女性であることと栄養学というものははじめてのこととして、私も誠に驚きました。これまでの諸先生のご教育とご支持によるものと感謝してあります。食生活方面の方や、また私の大学の卒業生はとくに喜んでます。前例のないことでありますし、長年苦勞をつづけていたことですから、これでその苦勞も一掃されたように思えてうれしいです。私が東大内科でいたしましては、主として胚芽米によって日本人

ックと毒素性ショック症候群の発症機序—内因性因子の関与—。小児科診療、五四巻一三三—一三三一頁、一九九一年。②内山竹彦・MH CクラスII分子に結合してT細胞を活性化化する細菌毒素—外毒素性異常反応の機序—。臨床免疫、二二巻一五四頁、一九九〇年。③内山竹彦、今西健一・スーパー抗原特性を示すA群レンサ球菌発熱性外毒素群によるT細胞活性化と異常反応誘導の機序。Medical Immunology、二二巻四六一—四七三頁、一九九一年。等を参照してください。

高柳泰世先生(愛知支部) 日本医師会最高優功賞受賞

高柳泰世先生は、平成三年十一月一日、日本医師会から表彰の表紙を受けられました。先生は長年にわたり、複雑な色覚問題の厚い壁を解消すべくひたむきに努力されました。その貢献に対し高い評価を受けられ、医師として最高の榮譽に輝かれたものであり、私も女医会員にとりまして誠に喜ばしいことと存じます。

*高柳先生業績の概要

- (1) 学校保健における色覚検査の是非。日本の眼科、五五(五)四四七—四五四、一九八四年。
(2) 第三八回世界医師会総会に出席して。日本の眼科、五七(二)二七—二七九、一九八六年。
(3) 教科書の色誤認とその改訂について。日本の眼科、五七(五)四五三—四五六、一九八六年。
(4) 大学入試における色覚異常者制限の現況。臨床眼科、四〇(七)七八〇—七八一、一九八六年。
(5) 色覚異常者に対する大学入学制限について。健康教室、四三三(一一)一〇一—一〇五、一九八六年。
(6) 大学進学時における色覚異常者の制限調査。日本の眼科、五八(二)六九—七二、一九八七年。
(7) 色覚異常者の明度識別能に関する研究。日本の眼科、五八(七)五二—五二四、一九八七年。
(8) 色覚異常者の社会的制限調査。日本の眼科、五八(九)八〇—八四、一九八七年。
(9) 色覚異常について—色覚異常者に正しい理解を—。愛知医報、一一四三、四一八、一九八七年。
(10) 高等学校入学選抜における色覚異常者の取り扱いについて。文部省、一九八七年。
(11) これからの学校保健—色覚検査の見直しを。母子保健情報、一七(九)三五—三七、一九八八年。
(12) 色覚異常者に対する大学入学制限の緩和状況。日本の眼科、五九(二)一一三—一二四、一九八八年。
(13) 学校における色覚検査に関するアンケート報告。日本の眼科、五九(四)三三—三三三、一九八八年。
(14) 色覚異常に関するアンケート調査。日本医師会第一九回学校医大会誌、二三五—二四二、一九八八年。
(15) 「色覚異常」・「色覚障害」言葉が誤解を招いている。健康なことも、一八三(二)五〇—五二、一九八八年。
(16) 色覚異常者の実社会における色覚能に関する研究。日本の眼科、六〇(二)九九—一〇四、一九八九年。
(17) 「色覚異常を特別扱いしない社会にしていきたいものです」。教育技術小に、八〇—八三、一九八九年。
(18) 名古屋市学校医(眼科)会の色覚異常に対する見直しの歴史について。教育医学、二九、六一—六六、一九八九年。
(19) アメリカにおける企業の色覚異常者に対する対応について。日本の眼科、六一(六)五六—五九、一九九〇年。
(20) 色覚異常者に対する平成三年度の大学入学制限状況及び平成三年度教職員募集要項の色覚異常の記載の有無について。日本の眼科、六二(二)一八七—一九九、一九九一年。
(21) 名古屋市学童の眼鏡調査について。日本の眼科、五二(五)四九三—五〇二、一九八一年。
(22) 学校低視力者対策への試み(姿勢と視力)。日本の眼科、五三(一一)九三—九四、一九九一年。

全国地域医療功労賞を受賞して

高知支部 中平千与子



私は、昨年三月二十五日、「全国地域医療功労者」として、全国候補者百五十名の内十五名の中に選ばれまして、北は北海道から南は沖縄までの方々が十五名集り、帝国ホテルで厚生大臣より表彰状を授与され、盛大なパーティーを催していただきました。翌日は、皆様と一緒に宮中に参内いたしました。天皇、皇后両陛下に拝謁を賜り、親しくお言葉をお聞かせいただき、光栄に感じて帰ってまいりました。

また夜は新聞で知ったとの事で、東京近郊の昭九会のクラスメート十一名がご多忙のところをかけたついでに、祝の宴をやった。涙が出るほど嬉しく有難く感じました。私はただ医者としてなせばならぬ事を、誠意をもって真面目に永年やってきたにすぎませんのに、表彰を受け、町や女医会をはじめ、新聞で見たとの事で県外の見知らぬ人からもお祝いや励しのお手紙をたくさん

いただいた。感謝すると同時に、果たして自分が表彰に値するかどうかと反省もいたし、心苦しく思い、一層の責任の重大さを感じている次第です。私は昭和九年東京女子医専を卒業後は、高知市で中央病院また県の医務課に勤めておりましたが、市中で開業をしていましたが、父の死亡のため故郷の大正町へ帰り、父の跡を継ぎ、ささやかな病院を開業して三十年あまりになります。私の町はテレビ等で紹介されますのでご存じの事と思いますが、清流四万十川上流の、人口四千人あまりの小さい町です。私が帰町した当時は戦後の苦しい時代でした。小さな部落が十カ所も散在している町ですが、交通は不便、乗り物などないのでも森林鉄道のレールの上を、「トロッコ」に乗ったり、自転車の荷台にのって、往診や予防注射に行ったものです。赤痢が流行して薬や注射も不足して困った事などいろいろと苦勞もありましたが、今は懐し

- (23) 学校低視力者対策への模索—Dランク(裸視視力〇・三未満)調査。日本眼科紀要、三五(九)一七四—一七五、一九八四年。
(24) 幼児期弱視の学童期に及ぼす影響とその対策。第一六回全国学校保健・学校医大会記録、九五—一〇二、一九八五年。
(25) 低視力学童児に対する眼鏡処

い思い出です。しかし現在では交通機関も発達して、どんな山の中へも自動車が行きやすくなり、部落部落にある小学校、中学校、幼稚園などの健康診断、予防注射、老人検診などで行けるようになり、たいへん楽になりました。町役場でも福祉事業に力を入れていただきまして、設備の整った診療所、福祉センター、老人のためのリハビリセンター等もできまして、診療所の先生、保健婦さん等と力を合わせて町の健康管理につとめています。私は現在七十九歳になりましたが、いたって健康でして、病気で診療を休んだ事はありません。今でも元気で第一線で働いています。開業以来三十年あまりになりますので、患者さんも親、子、孫と三代を診察してきます。その内「ひ孫」をも診察するようになっています。さてこのたび、身にあまる表彰を受け、この光栄を心にきざみ、町民の信頼に答えるために自分自身にも

最高裁判所長官表彰を受けて



福岡支部 藤本 芳子

このたび、私ことならずも最高裁判所長官表彰の栄に浴しました。十一月二日、諸団体主催にて祝賀会を多数出席のもと開催していただき、また、思いがけもなく山崎倫子会長様の祝電を頂戴いたし、誠にありがとうございました。ごさいました。家庭裁判所調停委員として三十年、何のお役にも立たず過ごしてまいりまして、今回の受賞、遅くも来たるものかな、またそのような年になつたのかと感慨も一入です。私の地

健康に十分注意して、地域医療発展のため、残る人生を力の続くかぎり頑張るつもりです。今後ともご指導をよろしく願っています。

今回は日本女医会にまでお祝辞をいただき厚く御礼を申し上げます。そして日本女医会のみならず、ご発展をお祈りいたします。いて。日本の眼科、五九(八)八一—八二〇、一九八八年。
(29) 中途失明者のリハビリテーションについて。現代医学、三六(三)五二—五三、一九八九年。
(30) 高齢化社会を迎えて、Low Vision ケアについて。六法出版、眼科診療Q&A、追録七・二二五—二二五、一九九〇年。



またが、女性会長は九州、福岡で初めてでした。
本職の産婦人科開業の傍ら、保健所嘱託医二十二年、日本女医会予備評議員、関西医大同窓会評議員、福岡佐賀支部長等勤められた。その他、後半生はいろいろの団体のお世話、社会奉仕をしてまいりました。それも主人と同じ産婦人科(一昨年まで主人は日本母性保護協会九州ブロック会会長)であったお陰だと思います。私はまた正義感が強い方で、その活動の二、三を綴らせていただきます。

高知公開講演会に出席して

●平成3年11月17日/高知共済会館

われ女医として、こうした大衆に対する働きかけは本当に大切な事と痛感いたしました。

事業部 川田喜代子

最後に北海道支部の奥山先生はじめ諸先生方の力強いご協力に心より感謝申し上げます。

いま私たちにとって一番関心の深い老人問題のご講演をいただいた。ご講演は、いわゆる先進国のフランス、スウェーデン、アメリカ等の統計を引用していろいろと話をすめられ、今後は今までのように老人ホームを多く作るよりも、在宅ケアを主体とするべきで、それには福祉と医療をドッキングして、ヘルパー制度を確立するとともに、ボランティア活動の輪を大きく広げていく必要があること、また、若い時から正しい生活、バランスのとれた食事、常に健康状態のチェックをおこなって自信をもって生きていくことが大事と説かれ、日頃から家族はもちろんのこと、地域の人々とのコミュニケーションを大切に、地域のネットワークを作っておく必要があることも話された。そして、最後にお年寄りが人間として最後まで幸せであってほしいと結ばれ、私たちも大いに感銘を受けた。

当日の会場には、高知県女医会の小出つる子会長、浜崎浜子日本女医会高知支部長のご尽力で百人以上の

札幌公開講演会に出席して

●平成3年10月9日/札幌市社会福祉総合センター

事業部では毎年何回か公開講演会を各地方で開催しております。今年も皮切りに札幌市で非常に盛況裡に施行され、北海道支部長奥山先生より有益な講演に感謝すると共に、北海道女医会の存在を市民にアピールできて二重の喜びとのメッセージをいただきました。以下概要をご報告いたします。

毎日雨降りの本州から来て降り立った北海道は、われわれを青空で迎えてくれました。会場である社会福祉総合センターは札幌市医師会館のすぐ隣りくらいの近さにあり、なかなか立派な建物です。日本女医会北海道支部長の奥山先生はじめ役員の方々がお待ちくださり、いろいろご準備の最中でした。

時間になり会場にはいりますと、満員の入場者で期待にみちた顔がわれわれを迎えてくださいました。今日のテーマは「幸せな一生をおくるために」です。

支部長の奥山先生の実に落ち着い

事業部 丸茂 晶子

要請に応えられ、身体の診療はもとよりですが、社会とのコミュニケーションをはかり、精神(心)、社会のカウンセラーとしても活躍の分野を拓けていっていただきたいと思

たご立派な開会のご挨拶の後に、仙台的長池先生のお話から始まりました。演題は「女性のライフサイクルと性」。昭和四十八年先生が開設された長池優生保護相談所における豊富なご経験によるお話は、全員思わず引き入れられてしまいました。人間がそれぞれ男になり女になる性徴が現われて、平均結婚年齢までの時間経過の昔と現在の差、結婚前の価値観の変化、平均寿命の延長による性生活の長さや内容の変化、社会的環境の変化、栄養状態の差また現代はマスコミによる性情報の氾濫等が著しい。子供たちに対する性教育は男女の性意識の差の正しい認識を与え、望まぬ妊娠をしないよう、性病を避け、ノーといはつきり言える女性になるよう、自立し自分の頭で判断行動できるように教育する必要がある。また家庭は両親の在り方がもの言わぬ中に性教育となっているから両親はその責任をかんがえねばならない。子供のわかる言葉で性に関する

たご立派な開会のご挨拶の後に、仙台的長池先生のお話から始まりました。演題は「女性のライフサイクルと性」。昭和四十八年先生が開設された長池優生保護相談所における豊富なご経験によるお話は、全員思わず引き入れられてしまいました。人間がそれぞれ男になり女になる性徴が現われて、平均結婚年齢までの時間経過の昔と現在の差、結婚前の価値観の変化、平均寿命の延長による性生活の長さや内容の変化、社会的環境の変化、栄養状態の差また現代はマスコミによる性情報の氾濫等が著しい。子供たちに対する性教育は男女の性意識の差の正しい認識を与え、望まぬ妊娠をしないよう、性病を避け、ノーといはつきり言える女性になるよう、自立し自分の頭で判断行動できるように教育する必要がある。また家庭は両親の在り方がもの言わぬ中に性教育となっているから両親はその責任をかんがえねばならない。子供のわかる言葉で性に関する

ることを教えればよい。とくに男子には精通現象をはつきり教え、妊娠させる能力のあることとそれに対する責任感を教えなければならぬことを強調された。

性生活とは生殖、快楽、連携を意味し、正しい性知識によって充実した結婚生活を送り老年に至るまで男として女としてお互いに真の理解をもって、愛情ある生活を、触れ合いのある生活をしていただきたい、触れ合いこそ愛の根本である。

大変大きな、人生の人間としての生き方についてのお話で会場を圧倒するものがありました。

最後に山崎会長の「幸せな老後のために」と題するご講演がありました。

これも会長先生が所属をしておられる武蔵野市北町高齢者センターにおけるご実践に裏付けられたお話で、長池先生のお話とともに「人生」を感じさせる意味でみごとに連携されたご講演で会場の聴衆を感動させるに十分なものでありました。

たとえボケた老人でも、立派な一人であるから、社会でも単に「おじいちゃん」とか「おばあちゃん」と言うような個性のない呼び方をするのはではなく、名前を呼び、家庭においても、形式的に大事にするのではなく、心の触れ合いを大切に言葉による交流を大切にして、できる仕事はしてもいいそれを認めてあげる、そういった優しさがボケを防ぐために大変大切である。またボケをさげ

るため、福祉機器をできるだけ利用し、楽に起居できるようにすること、転ばぬようにする事が大切。また音楽は老人の精神におおきな効果がある。古い歌もよいが、ロックなども大変効果がある。老化を防ぐため、自分の仕事をもち、好奇心を持ち、美しいものに感動する心こそ若さの源である。

日本における寝たきり老人は六十万人もいる。北欧においては老人ホームを建設しない方針を決定されたとか。そして寝たきり老人はないという事である。その原因は椅子式という生活様式もあるが、ヘルパー訪問看護婦が日本に比べ大勢いることも大きい。ヘルパーは日本に比べスウェーデンで二十三倍、デンマークで十六倍、日本の訪問看護婦は二万人、スウェーデンは七万人、ケアつき住宅はスウェーデン百五十万戸、デンマーク四十万戸、日本ではごく少数ということである。

みな誰でも年を取る事を考え、若い内から老後を考え、男性も定年後仕事をもち自立し、女性と力を併せて政府に老人対策の根本的対策を言進めるようであってほしい。

豊富な実例をまじえ、男性に対しての希望とか聴衆の心を捕らえるものが大変大きくございました。

どちらも人の心と家庭や社会の在り方に示唆を与えるお話で、会場の聴衆に大きな感動を与えた見事なご講演でありました。あとで大変感動したという投書があったとか。われ

理事会議事録

日時 平成3年9月28日

場所 日本女医会 会議室

- 出席者 山崎、佐藤、白橋、野呂、青井、石原、稲生、白浜、中濱、二村、橋川、平敷、明石、荒木、小田、川田、栗原、小出、佐々木、佐野、関口、田中、南雲、野沢、松井、丸茂、森田、吉崎、大原、本多、欠席者 野本、橋本、三好、平瀬、土井
- 庶務報告 明石理事
- 7月20日・常任理事会、国際女医学会西太平洋地域会議組織委員会および第五回ワークショップ(七八名出席)開催。
- 7月26日・クルド難民の子供達へ一三七、五八〇円寄付(本部、東京都支部連合会)礼状あり。
- 7月31日・厚生省(役員登記簿本提出)。
- 8月29日・日本女医会誌(二七号、年金パンフレット、会費請求書発送)。
- 9月2日・支部助成金を総会欠席

- 役員の方々が出席され、保健婦をされた方々の体験談や前高知県女医会長窪先生のご発言もあり、大へん盛況かつ、実り多い会であった。
- また、講演会のおと、席をかえて
- 9月10日(16日・W H O 西太平洋地域会議に国際女医会代表として山崎会長、平敷常任理事出席(大宮市)。
- その他
- (1) 東京女子医科大学名誉理事長、名誉学長吉岡博人氏の密葬に弔電生花を供す。
- (2) 「日本女医史追補」本の礼状多数あり。
- 連絡事項
- 一、東京都立労働研究所より第一回都立労働研究所公開講座開催の案内あり。
- 二、国立婦人教育会館より平成3年度公開講演会実施計画あり。
- 追加・国連NGO国内婦人委員会国連総会政府代表代理江尻美穂子氏の歓送会に山崎会長出席。
- 会計報告 二村常任理事
- 7月・8月分収支別紙どおり報告。
- 各部報告 稲生常任理事
- (広報部) 稲生常任理事
- ・会誌二二八号の原稿割つけ完了。

- (事業部) 白浜常任理事
- ・8月16日、事業部会開催。
- ・10月9日、北海道支部にて公開講演会。
- 演者・山崎倫子、長池博子
- ・11月17日、高知支部にて公開講演会。
- 演者・山崎倫子、三木 鈴(非会員)
- ・荻野吟子賞、吉岡弥生賞、へき地診療への助成について推薦依頼。
- (学術部) 平敷常任理事
- ・7月20日、ワークショップ開催。
- 七八名出席。講演内容は、会誌に掲載。
- ・10月12日、学術講演会出席の依頼。
- (会計部) 青井常任理事
- ・収入および支出について配布資料の説明。
- (庶務部) 明石理事
- ・名簿勘定について報告。
- 議事
- 一、第二二回国際女医会グアテマラ会議について
- 期日 一九九二年三月八日(14日)
- 開催地 グアテマラ
- 演題提出 山崎倫子、佐藤千代子、平敷淳子
- 二、国際女医会第五回西太平洋地域会議について
- 期日 一九九三年五月二十日(24日)
- 場所 第一候補地 京都、第二候補地 名古屋
- 三、名誉会員制度について

平成2年度 日本女医学会会員学位取得者一覧表 (学術部)平成3年12月10日

全国医科大学80校に調査依頼し54校より回答あり、結果285の学位取得者中10名の既会員がおり、会員外で住所判明の280名に入会のお誘いをして11名の入会あり。

(敬称略)

Table with columns: 支部, 氏名, 出身校, 卒年, 論文名. Lists members and their research papers.

緊急理事会議事録

日時 平成3年10月26日
場所 日本女医学会 会議室
出席者 山崎、佐藤、白橋、青井、石原、稲生、白濱、中濱、二村、野本、橋川、三好、明石、荒木、小田、栗原、佐々木、佐野、関口、田中、

- 次回11月理事会に提出。
(1)地域保健研究会への助成について
(2)平成3年度総会について
(3)総会出席者記念品「傘」の在庫について
(4)役員役務分担変更について
(5)事務所問題について

弔詞

東京女子医大前学長吉岡博人先生には、平成三年八月五日ご永眠遊ばされましたが(肺炎後の心不全、八十八歳)、突然の悲報に関係者一同、深い悲しみに打たれました。
八月六日通夜、七日密葬が弥生講堂にて行なわれ、本葬は九月二十二日青山葬儀所にて行なわれました。非常にも多方面の方々のご参集を得、ご生前の先生のご親交の深さを痛感いたしました。わが日本女医学会も、昭和三十九年、東京にて国際女医学会

総会が開催されました折には、ひと方ならぬご面倒をいただき、感謝の念でいっぱいでした。
もうしばらく、余生をお楽しみいただけたらと、残念に思いながら永遠の別れの言葉とさせていただきます。安らかに休み下さいませ。
平成三年十二月十日 合掌 日本女医学会

進連絡会議に出席。
(広報部) 中浜常任理事
日本女医学会誌一八二八号21日に校正、今月中に発送予定。
(事業部) 白浜常任理事
10月9日、札幌市社会福祉総合センターにおいて公開講演会を開催。参加者三〇〇人(満席)
(学術部) 田中理事
第一四回学術講演研修会会計報告。研修会出席者四二名、懇親会出席者三二名。
一、事務所(人事)問題について
東京都支部連合会よりオプザーバーとして、斎藤歌子、守屋孝子の両氏が出席
・事務局四宮10月24日山崎会長宅を訪問。一身上の都合により10月25日を以て退職したい旨の辞職願いを提出。預かり置く。
・佐藤副会長より9月理事会後の経過として、10月10日四宮、正木、塚本、三事務員と、会長、佐藤、白橋副会長、石原庶務、青井、二村会計常任理事六名との四時間にも亘る話し合いの結果の報告があり。
・白橋副会長、青井、二村常任理事の補足説明の後、理事一人一人から意見を聞く。
・結論として、依頼退職という形で四宮事務長の辞職願いを受理することに決定。
ただし、若干名の理事から免職にすべきであるとの意見があつたことを付記する。
退職手続き及び退職金については、会長、副会長、庶務会計常任理事に一任する。
二、その他
(1)第五回国際女医学会西太平洋地域会議について(予定)
期日 一九九三年5月20日(土)
場所 京都(新都ホテル)及び京阪ホテル
スケジュール
5月20日 登録、ウェルカムパーティー
5月21、22日 演題発表並びに総会
5月23日 日本女医学会定時総会
外国の先生方は京都観光、夜は合同パーティー
副会長(庶務担当)佐藤
庶務部 石原、三好、明石、荒木、吉崎
以上

理事会議事録

日時 平成3年11月16日
場所 日本女医学会 会議室
出席者 山崎、白橋、野呂、青井、石原、稲生、白濱、中濱、二村、野本、

- その他
(1)労働大臣官房総務審議官高橋欄太郎氏、労働省婦人局長松原巨子氏より就任挨拶あり。
(2)故吉岡博人先生のご遺族より供花の礼状あり。
(3)故若林静子先生のご遺族より香典の礼状あり。
(4)平瀬文子理事、東京女子医科大学病院へ入院加療中のため生花のお見舞いをする。
(5)香川 綾氏、文化功労者受賞、お祝いとして花束を贈る。
(6)藤本芳子氏、11月3日最高裁判所長官賞を表彰された。祝電をうつ(お礼の品あり)。
(7)医師国家試験合格者および学位取得者へ当会入会のお誘い状発送。(国家試験合格者一〇〇八名、学位取得者二八〇名)
(8)「日本女医史追補」本の礼状あり。

連絡事項

一、国際人権規約完全実施促進連絡会より、滞日外国人の人権問題を考える会開催の通知あり。

期日 12月2日
場所 婦選会館
参加費 二〇〇円

二、東京都生活文化局婦人青少年部より、平成3年度地域女性団体指導者等研修会開催についての案内あり。

期日 第一会場12月5日、第二会場12月13日
場所 第一会場・東京都消費者センター多摩西支所教室
第二会場・東京都婦人情報センター教室

テーマ 「人権と性」

対象 地域女性団体指導者等および区市町村女性問題担当職員

三、日中医学協会より、公益信託金原記念日中医学交流基金平成3年度後期助成金に関するお知らせあり。

申込期限 12月10日
助成金額 総額五〇万
金額 総額五〇万
応募資格 中国からの医学の研究・勉強または医療技術の習得に由来した研究者または留学生。

上記の者に医学専門用語を正しく教授するための語学研修生。上記二件に準ずる者で

運営委員会で承認された者助成金給付後の留学期間が一年以上ある者。

四、市川房枝記念会より、婦選会館講座開講の案内あり。

四宮元事務員の退職手続きが完了、退職金について説明あり、勤務年数は二〇年三カ月であったが、二一年勤務の計算で会計士に計上して貰い、中退金からの退職金に加えてさらに一カ月分を会より上乘せした。

会計報告 栗原理事
10月分収支別紙どおり報告。承認

各部報告

〈広報部〉 野沢理事
11月6日、日本女医会誌一二八号を発送。

〈事業部〉 橋川常任理事
11月17日、高知共済会館において公開講演会を開催。

時間 13時30分
演題及び演者 「最近の若者の性」 三木 鈴
「幸せな老後の為に」 山崎倫子

事業部からは、川田理事、橋川常任理事が出席。

〈學術部〉 橋本常任理事
第五回国際女医会西太平洋地域会議のテーマについて来月中に決める予定。

議事

一、第五回国際女医会西太平洋地域会議について

詳細は12月の常任理事会で決める予定。

二、名譽会員制度について
理事、監事、会員の継続勤務年数によって一律に与えることはむずかしい。あくまで、この法人に対し特に功労があった正会員とする。三、その他

(1) 荒木律子先生より理事の辞任届けが提出され、受理した。

(2) 埼玉県立久喜図書館より、日本女医史(追補)寄贈依頼があったが、前例がないためにご購入戴くよう決定。(ただしこの件については、田中蘭子理事がしるべく対応する。)

(3) 12月21日の常任理事会について西太平洋地域会議を開く京都の会場下見、打合せをかねて、京都で行なうこととする。

(4) 職員の冬期ボーナスについて例年通り、2・7カ月分とする。

(5) 吉岡弥生賞、荻野吟子賞の応募がまだないので、理事、評議員にご検討、ご推薦願いたい。

(6) 第二回国際女医会グアテマラ会議について
1月未までに参加希望者は、阪急かJTBに申し込んでほしい。現在約二〇名である。

(7) 1月理事会と新年会について
日時 平成3年1月25日(土)
理事会 15時30分
新年会 17時30分
場所 京王プラザホテル

(8) 理事会の開催時間について

15時からでなく、15時30分から16時からにしてほしいという意見があった。とりあえず、1月は新年会の為15時30分からとする。

庶務部 石原、三好、吉崎

会員動静

評議員(敬称略)
中野支部 大谷明子
入会会員(敬称略)

福島支部 松浦明子
千代田支部 藤崎順子
練馬支部 長尾多美子
山梨支部 内藤いづみ
物故者(敬称略)
練馬支部 高橋節子 田村リツ
文京支部 宮下トシ
都下東支部 森岡 幹
神奈川支部 若林静子
愛知支部 村上泰子
石川支部 細川茂里為
山本喜代子

集記

あけましておめでとうございます。会員諸先生方におかれましては平成四年の輝かしい新春をお健やかに迎えることと存じます。

今回の第百二十九号には文化功労賞受賞の香川綾先生を始め日本医師会最高優功賞、全国地域医療功労賞、最高裁判所長官表彰等々権威ある受賞のご報告ができました。この事は日本女医会にとりましてこの上もない喜びであり名譽の事と同慶の至りでございます。受賞の先生方には極めてご多用の中、玉稿を賜りまして厚くお礼申し上げます。

昨年は湾岸戦争、ソビエト連邦消滅、つづいて共和国の誕生等、実に目まぐるしいほどの国際情勢の歴史的激動を眼のあたりにし、平和な日本に生きる幸せと感謝の気持でいっ

ばいございます。医療の世界においても遺伝子組換え、脳死問題など日進月歩の激動の時代に女医の一人として各人それぞれが着実に社会に貢献してゆく事が何より大切な事と考えます。

正確な情報をより迅速にお届けできますよう、本部と会員の皆様との太いパイプ役を果たしてまいりたいものと願っております。よろしくご協力賜りますようお願いいたします。(野澤)

平成4年1月20日 印刷
平成4年1月25日 発行
編集人 稲生 襄
発行人 日本女医会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-817 青山宮野ビル
社団法人 日本女医会
電話 三三四九八一〇五七一
制作 東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版